

平成31年1月30日
総合政策局物流政策課

スワップボディで物流生産性革命！

～「スワップボディコンテナ車両利活用促進に向けた検討会」第3回の開催～

国土交通省では、スワップボディコンテナ車両の全国的な普及に向け、相互利用を可能とする標準的な仕様や効率的な管理、運用方法等に係るガイドラインの本年度中の策定に向け、検討を進めています。2月1日の第3回検討会では、ガイドラインの素案について議論します。

スワップボディコンテナ車両とは？

- **車体と荷台を分離**することができ、**分離中に荷役作業の実施が可能**
- 輸送業務と荷役作業を分離することにより、荷待ちのムダひいてはムダな労働時間を削減し、物流の生産性向上とともに働き方改革に貢献。



【スワップボディコンテナ車両】
(出典：国土交通省生産性革命プロジェクト(第4版))

女性活用等の
働き方改革

荷役作業効率化
生産性革命

稼働効率向上等
コスト削減

- (1) 日時：平成31年2月1日（金）10時00分～11時30分
- (2) 場所：中央合同庁舎第4号館1階 全省庁共用108会議室
(東京都千代田区霞が関3-1-1)
- (3) 構成員：別紙1のとおり
- (4) 議題（予定）
 - ・ガイドライン素案について（ガイドラインのイメージについては別紙2参照）
- (5) その他
 - ・検討会は、非公開としますが、検討会の頭撮りは可能です。頭撮りを希望される方はあらかじめ、1月31日（木）16時までに、人数、氏名、所属、連絡先を以下宛先までメールにて送付下さい。
 - ・当日9：55までに会場の入口にお集まり下さい。
 - ・議事概要、会議資料等は、後日、国土交通省ホームページにて公表する予定です。

【問い合わせ先・登録先】

総合政策局物流政策課企画室 東 (azuma-s2mj@mlit.go.jp)、上中 (uenaka-m2f2@mlit.go.jp)
代表：03-5253-8111（内線53-344） 直通：03-5253-8799 FAX：03-5253-1559

スワップボディコンテナ車両利活用促進に向けた検討会 構成員

(順不同・敬称略)

○荷主関係

北條 英 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
J I L S 総合研究所 ロジスティクス環境推進センター長
大谷 明 株式会社ホームロジスティクス 営業本部 輸送部マネジャー

○自動車運送関係

荻原 正吾 公益社団法人全日本トラック協会 役員待遇 交通・環境部長
小森 庸史 佐川急便株式会社 輸送ネットワーク部路線課長 兼 配送課長
前田 修 富士運輸株式会社 成田支店長

○自動車製作関係

林 則光 一般社団法人日本自動車工業会
安全・環境技術委員会 大型車部会長

○自動車架装関係

清水 正之 一般社団法人日本自動車車体工業会 技術部長
松田 昌万 日本トレクス株式会社 技術開発部トラック開発課 専任技師
川本 学 日本フルハーフ株式会社 企画部 シニアアドバイザー
小谷 和司 株式会社パプコ 標準ボディ開発部 主任
村松 孝宣 S G モーターズ株式会社 購買部担当部長

○行政

伊奈 友子 経済産業省商務・サービスグループ消費・流通政策課物流企画室長
平嶋 隆司 国土交通省自動車局貨物課長
山田 輝希 国土交通省総合政策局物流政策課長
多田 浩人 国土交通省大臣官房参事官 (物流産業)
野口 透良 国土交通省総合政策局物流政策課企画室長

目的

- ・スワップボディコンテナ車両を相互利用できる環境整備及び利活用促進
- ・スワップボディコンテナ車両の全国的な普及促進

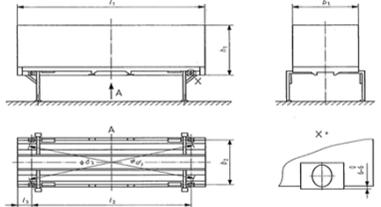
効果

- ・荷役の軽労化を通じたトラック運転者不足対策（女性ドライバーの活躍など）
- ・中継輸送の実現等による働き方改革
- ・ドライバーの輸送業務への集中を可能とし、安全性向上

ハード面における検討項目（例）

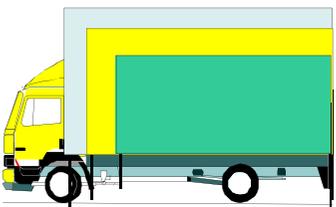
※ 水平脱着式を対象とする（シャーシは4軸フルエアサスが必須）

・緊締装置、ガイドの基準



⇒緊締装置の位置、ガイドの幅等の標準化

・コンテナのサイズ



⇒サイズによる緊締装置やガイドの最適な位置

・段積みの可否



⇒保管効率向上に向けた段積み

・貨物鉄道への対応



⇒フォークポケットなどのオプション

・互換性の表示



⇒ピクトグラム等による互換性表示
 ※『JABIA 基準適合ラベル』は、同色の脱着車とコンテナ組み合わせが可能であることを示している

ソフト面[運用・教育など]における検討項目（例）

・荷主と運送事業者の役割



⇒荷主と運送事業者双方の役割分担の観点から運用方法を取りまとめ

・バース側の注意点



⇒バース高、接地面の起伏、バース前面の接着幅

・検討フロー



⇒荷主と運送事業者の迅速な合意形成に向けたフロー図

・海外事例の調査



⇒欧州規格との比較や海外の普及状況など

・乗務員教育



⇒安全な荷台分離を可能とする乗務員教育の内容

ガイドラインに含める内容

- ・効率的な運用が見込まれる設計基準（車体、荷台、緊締装置・ガイドの位置 等）
- ・望ましい運用（荷主と運送事業者の役割分担、合意形成に向けたフロー 等）
- ・ガイドラインの普及に向けた関係者の取組（好事例の取りまとめ）

等